

新歓教研

4月8日(土) 10時和泉コンセン
上野山小百合さん
(八尾市・小学校)

来年度4月の泉北教組新歓フェスタ(教研)は八尾市の小学校勤務の上野山小百合さんを招きます。今号では、上野山さんの社会科の実践を紹介します。小学校高学年だけでなく、中学校社会科の先生にもおすすめです。



子どもの生活に結びついた教材は、みんなが興味を持って学び、自分の意見を表現しやすくなります。4年生以上の学年で身近なバナナを教材にした授業をしてみませんか。

バナナから学ぶ授業

日本で売られているバナナのほとんどはフィリピン産で、大規模農園で農薬を空中散布して生産されています。バナナをつくっている人たちの働き方やくらしを学ぶと、人の命よりも儲けが優先される産業のしくみの問題点が明らかになってきます。

何気なく見ていたバナナを違った見方で見ることができ、他の食べ物がある問題も見えてきます。

バナナはどうやってつくられる

「アジアの子ども」

(明石書店)のなかの「バナナのお話」を導入の授業で使います。フィリピンのバナナ農園でお父さんが農薬散布の仕事をしている9歳のアルトロの視点で書かれた物語です。自分と近い年のアルトロに心を寄せて、アルトロや体調の悪いお父さんのことが子どもたちの間でも話題になり、大規模農園の問題点に気づいていきます。ビデオで農園の様子を見ることがさらに理解が深まります。

アルトロの

お父さんの夢は

アルトロのお父さんの夢は、土地を返してもらって自分たちの食べるものを自分の畑でつくる生活です。輸入食品の問題点を指摘するだけで学習を終わらせるのではなく、未来に希望を持たせたいものです。その土地でとれたものをその土地で食べる「地産地消」を、身近な地域での有機農業の

とりくみとともに紹介をしてもいいでしょう。

他の農産物も

しくみは同じ

バナナ以外にもエビや中国からの輸入野菜の問題も取り上げて、労働者や消費者の健康よりも儲けが優先される社会のしくみを学びます。

「フェアトレード」バナナ

ネグロス島フィリピンに自生しているバランゴンバナナを栽培して日本に輸出して村の人々の生活を豊かにしようというとりくみ(フェアトレード)が日本人によって行われています。

多国籍企業の農園で働く労働者の賃金はとても低いのですが、フェアトレードのとりくみでは、くらしに必要な賃金が支払われ、バナナの価格に村の自立の支援金も含まれています。ビデオも出ているので教材化しやすいです。フェアトレードはコーヒーや衣類などでもされています。

子どもに一番身近な食べ物を通して

食べ物の向こうには、それをつくった人の生活があり、社会の矛盾まで見えてくるのです。命や健康よりもお金儲けが優先される社会はどうなのかということを具体的な例から考えることができます。働いている人々に寄り添いながら学んでいきましょう。

ATMお引出し手数料
実質無料
いつでもどこでも
どなたでも
入金でも
銀行ATMを使ったときの手数料が、減ってきます！

すべての勤労者の笑顔のために
近畿ろうきん
「ろうきん」のキャッシュカードは、セブン銀行・ゆうちょ銀行など、全国のATMでお引出し手数料は実質無料です。ご相談は泉北教組まで。